

大人のための子供の劇場 『親指こぞう』

Theatre for Children and Grown-ups III "Buchettino The Story of Thumbkin"

ペロ－童話『親指こぞう』を大人も子供も、毛布にもぐって聞こう！
世界中で愛された人気舞台『親指こぞう』の日本語版を製作・初演！



大人も子供も、ベッドにもぐってお話を聞こう！ 客席はベッド！

『親指こぞう』の劇場は、おおきな茶色の木の箱です。赤いカーテンをくぐって中に入ると、あるものは、たくさんの小さなふるぼけた木のベッドと裸電球がひとつだけ。おねえさんが優しく「ベッドに横になって...毛布にもぐりこんで...お話の時間だよ」と声をかけてくれます。「むかしむかし、あるところに、貧しい木こりの夫婦がいました」...。家の扉があくところでは、「ギーッ」と本物の音になるし、森の中を歩いているときは、落ち葉を踏みしめる音が「カサ、カサ」と聞こえてくる...うわあっ、人喰い鬼の家に、迷いこんじゃった！それじゃあ、この「ゴツン、ガタッ」という足音は、人喰い鬼の!?...

「耳」の劇場

『親指こぞう』では、すべての演出効果は「聴覚」に訴えるものになっています。1 時間の上演時間のあいだ、3 人の音響係が、休みなく、約 300 以上ものキューに従って(約 15 秒に 1 回!)、生の音で効果を演出します。徹底して「聞く」ことにこだわったお芝居、それが『親指こぞう』です。

出演は女優ひとり

注目の新星・ともさと衣^{ともさと い}がお話のお姉さんを務めます。俳優座の研究生を経て 1998 年に劇団乾電池プロデュース公演「カメレオン会議」のオーディションに 700 倍の難関を突破して合格。今回も演出家キアラ・グイディにオーディションで選ばれる。



オリジナル版を創作したイタリアの劇団 Societas Raffaello Sanzio

ソシエタス・ラファエロ・サンツィオの主宰ロメオ・カステルッチ(2005 年ベネチア・ビエンナーレ演劇部門ディレクター)演出の最新作『トラジェディア・エンドゴニディア』"Tragedia Endogonia"(2002-2004)は、フランスのアビニオン・フェスティバル、パリのフェスティバル・ドートヌなど、欧州の 9 つの主要フェスティバルや劇場の委嘱作であり、現在欧州でもっとも注目を集めている劇団のひとつ。その舞台は、テキスト以外のビジュアルや感覚に訴える要素を主にした、ミニマルだが不思議な生命力にあふれた舞台で、世界でツアーを重ねている。世界中で高い評価を得た"Genesi"などに代表されるカステルッチ演出作品のみならず、大人も子供も楽しめる作品をもまったく同じ力を捧げて創作するカンパニー。

演出家 キアラ・グイディ

ラファエロ・サンツィオでは演出のほか、音楽面の構成やヴォーカルワークの教師をつとめ、出演もする。1996-97 年の「子供のための実験学校」という作品で 98 年に児童演劇特別ユビュ賞を受賞。

公演概要

【原作】シャルル・ペロ－ 【翻訳】とよしま洋 【演出】キアラ・グイディ 【美術・音響】ロメオ・カステルッチ
【公演スケジュール】2005 年 2 月 11 日(金・祝日)～20 日(日)(開演時間は未定)

【会場】神奈川県民ホール ギャラリー (〒231-0023 横浜市中区山下町 3-1)

【チケット料金】(全席自由・税込)一般 3300 円 高校生以下 1800 円 【前売開始】12 月予定